

令和7年度

表現力・総合型

入 学 試 験 問 題

試 験 I

8：40～9：30

注 意

- 1 この問題用紙は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 解答用紙は2枚あります。それぞれに受験番号・氏名を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 4 印刷がわからない場合は申し出ること。
- 5 試験終了^{しゅうりょう}の合図でやめること。
- 6 問題は各自持ち帰ること。

品川女子学院中等部

令和七年度 中等部入学試験問題 表現力・総合型（試験Ⅰ）

◆答えはすべて解答用紙に書くこと

次の文章は、情報との関わり方について書かれたものです。文章を読み、あとの問いに答えなさい。（字数が決められている問題は、すべて「」「」記号などを字数にふくみます。）

一億総発信時代、誰もが問われる情報読解力Ⅱメディア・リテラシー

昨今、メディア・リテラシーという言葉が時代のキーワードとしてクロージアップされています。2020年から順次実施されていく学校教育の新学習指導要領でもその重要項目として「メディア・リテラシー教育」が挙げられています。

「リテラシー」とは本来「読み書きする能力、識字能力」の意味。そこから派生した「メディア・リテラシー」とは、テレビ、新聞、インターネットといったあらゆるメディアの情報をしっかりと読み解き、真偽を見極める能力、つまりメディアの情報読解力のことを指します。

とくにインターネットの普及を境にメディアの多様化が進み、私たちは常にあらゆるメディアに接して、そこから発せられる膨大な情報に取り囲まれながら生活しています。

ただ、世の中にあふれる情報は、そのすべてが正しいとは限りません。そこにはまったくのウソやデタラメ、根拠のない情報、誇張や偏りのある情報など、不確かで怪しい情報も数多く混在しています。

そうした時代を生き抜くために、これまで以上に正しい情報を識別し、適切に判断する能力Ⅱメディア・リテラシーの必要性、重要性が高まっているのです。

現代社会におけるメディア・リテラシーを語る上で、とりわけ重要なのが「インターネット上の情報」との向き合い方でしょう。

必要な情報がいとも簡単に手に入るという意味で、インターネットがこの上なく便利なメディアであることには異論はありません。ただ、常に意識しておかなければいけないのは、インターネットから得られる情報は「玉石混淆」^①だということです。

専門家や学者先生が発信している正確で有益な情報から、その辺の誰かが適当に書き込んだ根拠のない情報、さらには意図的に捏造された情報まで、十把一絡げでごちゃ混ぜに存在しているのがインターネットの世界です。そこでは「玉」よりも、むしろ「石」^②間違った情報^③のほうが多いかもしれません。

また、そうした「石」の情報ほど独り歩きしやすい傾向があります。ネットの世界では何の根拠も確証もない誤った情報（デマ）が瞬く間に不特定多数に拡散し、收拾がつかなくなるといった状況が珍しくありません。グリム童話『ハーメルンの笛吹き男』のように、吹き鳴らされた笛（②）につられて、判断力のない子どもたち（③）が群れになってついていってしまう——そんな現象が起こり得るのです。

2016年の熊本地震の発生直後、ツイッターに「動物園からライオンが放たれた」という一文がライオンの画像とともに投稿されました。この投稿はたちまち多くのリツイートによって拡散し、動物園や警察に問い合わせが殺到。ところがこの投稿はまったくのデマで、ライオンの画像も無関係な写真だったのです。最終的に投稿者は逮捕されたのですが、多くの人がウソのネット情報に翻弄されてしまったわけです。

膨大かつ玉石混淆で、正しい情報も愉快犯的な悪意あるウソ情報も、何もかもが同じ土俵に上げられてしまう。——インターネット情報の特徴は、そうした圧倒的な網羅性と並列性にあります。そして、私たちは自分自身で、情報の真偽や正誤を判断して取捨選択しなければなりません。

手軽に、簡単に情報が入手できる時代だからこそ、それが「玉」なのか「石」なのかをしっかりと見極めるために、冷静になつて能動的に真偽を判断・読解するスキルが求められるのです。

さらにSNSやブログの普及によって、今や誰もが自由に情報を発信できる「一億総発信時代」になっています。そんな時代ゆえ、情報の真偽を判断できないというリスクは、間違った情報を誰かに発信（シェア）するリスクにも直結してしまっています。「ライオンが逃げた」のようなデマの拡散はその顕著な例と言えるでしょう。

情報を受け取るときも、情報を発信するときも——私たち現代人は常に、自らのメディア・リテラシーを問われる時代に生きているのです。

ネット情報は「まず疑う」というスタンスで——違和感センサーを研ぎ澄ます

ネットに限らず、あらゆるメディアが発する情報を読み解くメディア・リテラシー（情報読解力）には、ふたつの重要なプロセスがあります。ひとつは「まず疑う」こと、ふたつめが必ず「裏を取る」ことです。

ひとつめの「まず疑う」は、月並みな言い方をすれば「情報を鵜呑みにしない」ということ。そのためには目の前の情報に対して常に批判的な視点を持つておくことが大事になります。

そのとき大事にしたいのが、その情報を前にしたときの「何だか怪しい」「どこかしっくりこない」「話が出来すぎていないか?」「都合が良すぎはしないか?」——という感覚、つまり違和感です。

違和感を察知する「違和感センサー」を研ぎ澄まして、少しでも引っかけかりを覚えた情報に対しては、まず疑いの念を持つて向き合い、そのままでは信用しない。これが情報の真偽を読み解くメディア・リテラシーの基本姿勢になります。

例えば、本をネットで購入する人も多いかと思えます。私もよく利用するのですが、その際にはレビューのチェックを欠かしません。おもしろそうな本を探してあれこれレビューを見ていると、ときどき、発行してからまだ数日しか経っていないのに、もう「☆5つ」の最高評価ばかりが10も20も並んでいることがあります。さらに、すべてのレビューがその本を絶賛し、ほめちぎっているんですね。

こういう極端なレビューを見たとき、『☆5つ』ばかりズラリと並ぶのは、何だかおかしい」と思えるかどうか、これが

大事なのです。

私の場合、こうした違和感を覚えるようなレビューに出会ったら、☆5つをつけている人が他の本にはどんなレビューを書いているのかを、^⑤「追跡調査」するようにしています。すると、その本だけにしかレビューを投稿していない人が何人もいるケースがよくあるんですね。これはいいよおかしいと。この人たちはこの本を宣伝する目的で高評価レビューをつけているんじゃないか——。そんな疑問を感じながらレビューを見ていくと、たまに「あの『☆5つ』に惑わされてはダメ」「あのレビューは、きつとステマ^{注5}です」といった投稿が出てきて、「やつぱり」と得心がいくこともあります。

極端なほめ過ぎに違和感を覚えることで、ズバリ並んだ高評価レビューを「マユツバもの」かもしれない。そのまま真に受けないほうがいい」と読み解くことができるのです。

本当は、きちんと読んだ人の正直なレビューなのかもしれませんが。その本は本当に素晴らしい内容なのかもしれません。しかし、そこに少しでも違和感を覚えたときは、すぐには信用しない。確かな根拠のないものについては、少なくとも「本当なのか？ ウソではないのか？」と疑ってみる。

疑わしきは信じない——この意識を持つことが、ネットという海で「石」をつかまないための基本の防衛策になるのです。

根拠のない不確かな情報は、必ず「裏を取る」

違和感センサーが反応した疑わしい、[〃]推定有罪[〃]の情報は信じない。鵜呑みにして発信しない。これがメディア・リテラシーの基本です。では、そうした不確かで疑わしい情報を前にしたとき、どのようにしてその真偽を見極めればいいのか。

答えはシンプルかつ明快。その情報を、多角的かつ徹底的に調べてみることです。つまり、情報の「裏を取る」のです。「裏を取る」とは、情報の真偽を識別できる証拠^{しやうこ}を集めて事実関係を確認すること。容疑者の不確かな供述の裏を取る刑事のように、不確かな情報があったら事実関係を徹底的に調べて真偽を確かめる。そして、裏が取れた（正しいと判明した）

情報以外は信用しない。これもメディア・リテラシーのもうひとつの基本姿勢になります。

そして、情報の裏を取る際に有効活用できるのが、他ならぬインターネットを使った「ネット検索^{けんさく}」なのです。

疑わしい情報が多いネットで裏を取るというのは矛盾^{むじゅん}しているのでは——そんな声もあるでしょう。

しかし、インターネットの爆発^{ばくはつ}的な普及・浸透^{しんとつ}・進化によって、書き込み^{かこみ}をする人の数も膨大になり、提供される情報の量も増え続けています。

確かにネット上には「石」の情報が多いかもしれませんが、^⑥しかしながら、ネット情報という^{注6}母集団^{ぼしゅう}がここまで巨大化^{きょうだい}している今、同時に、正確で根拠のある「玉」の数も格段に増えてきています。

ネット情報をそのまま鵜呑みにするのはもちろん危険ですが、だからと言って、ネットの存在を無視して、まったく使わずにメディア情報を読み解く、情報の真偽を調べるというのも、これまた危険な行為^{こうゐ}なのです。

（齋藤孝『大人の読解力を鍛える^{きた}』より）

注1「学習指導要領」……小学校などの教育内容や授業時間などが示された基準のこと。

注2「ツイッター」……現「X」。コメントの発信ができ、さまざまな人とやりとりできるサービス。

注3「リツイート」……ツイッターにおいて、他者のコメントを引用して再投稿^{とうこう}すること。

注4「愉快犯^{ゆかい}」……世間を騒^{さわ}がせ、その反響^{はんきやう}を楽しむことを目的とする犯罪。

注5「ステマ」……消費者に悟^{さと}られないような手法で行われる宣伝活動。

注6「母集団」……本文では、全体の集団のことを指す。

問1 ―線①「玉石」とありますが、ネット情報における「玉」と「石」の説明として最も適切と思われるものを次の中からより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、「玉」は自分で真偽^{しんぎ}を確かめ終わった情報のことであり、「石」は真偽を確かめ終わっていない情報のことである。
- イ、「玉」は正確かつ根拠^{こんきょ}のある情報のことであり、「石」はウソや間違い^{まちが}の含まれた疑わしい情報のことである。
- ウ、「玉」は多くの人が関心を持っている情報のことであり、「石」は一部の専門家のみが知っている情報のことである。
- エ、「玉」は「違和感センサー」が反応しなかった情報のことであり、「石」はそれに反応した情報のことである。

問2 本文中の②・③に入れるのに最も適切と思われる語句の組み合わせを次の中より一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-----|------------|----|---|--|
| ア、② | 間違いのない情報 | ―― | ③ | 騙 ^{だま} されやすい子どもたち |
| イ、② | 注目されやすい情報 | ―― | ③ | 情報の真偽を確かめない世代 |
| ウ、② | 流された情報 | ―― | ③ | 鵜 ^う 呑 ^の みにしてしまう人たち |
| エ、② | 同じ人が発信した情報 | ―― | ③ | いい加減なことを言う大人 |

問3 — 線④「メディア・リテラシーの基本姿勢」に関する次の会話のうち、本文で述べられている内容とは異なることを述べていると思われる生徒を一人選び、AからDの記号で答えなさい。

生徒A 現代はさまざまなメディアから発信された情報であふれているから、その情報がどういったものなのかをしつかりと考えてから取り入れていかなければならないね。

生徒B 中には自分たちの商品を売るために、わざと高い評価で書き込みをする人までいるからね。やっぱり購入する側からすると、高評価が並んだ商品を魅力的に思ってしまうのは当然だもんね。

生徒C 情報に対して疑ってみることが大切だね。そのためには情報に対しておかしいと思うことができるように、普段から批判的な視点は忘れないようにしておく必要があるね。

生徒D 疑わしい情報は自分でネット検索して調べていかないと、簡単に騙されてしまいそうだね。これはインターネットの出現によって生じたネット特有の問題だね。

問4 — 線⑤「追跡調査」する」とありますが、筆者が「追跡調査」をするのはどのようなときですか。説明しなさい。

図1 インターネットを利用している機器

(3279人が調査対象)

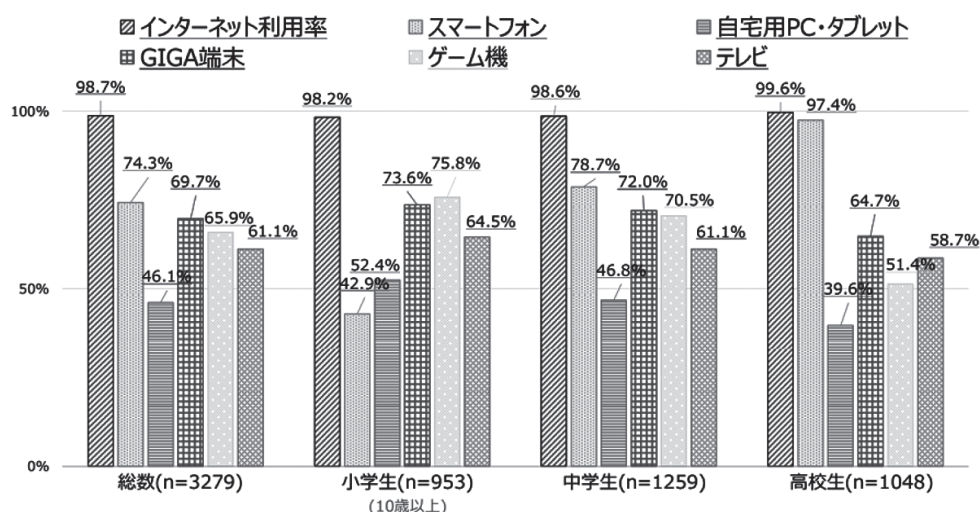
スマートフォン	74.3%
けいやく 契約していないスマートフォン	15.1%
けいたい 携帯電話	6.3%
自宅用のパソコンやタブレット等	46.1%
学校から配布・指定された パソコンやタブレット等 (GIGA たんまつ 端末)	69.7%
ゲーム機	65.9%
テレビ (地上波、BS等は含まない)	61.1%

子ども家庭庁『令和5年度 青少年のインターネット
利用環境実態調査』より

- 【条件】
- 1、原稿用紙の使い方に沿って書くこと。
 - 2、200字程度で書くこと。
 - 3、意見の根拠として、図1～4を最低2つは用いて書くこと。
- 使用するときは「図1」「図2」のように書くこと。

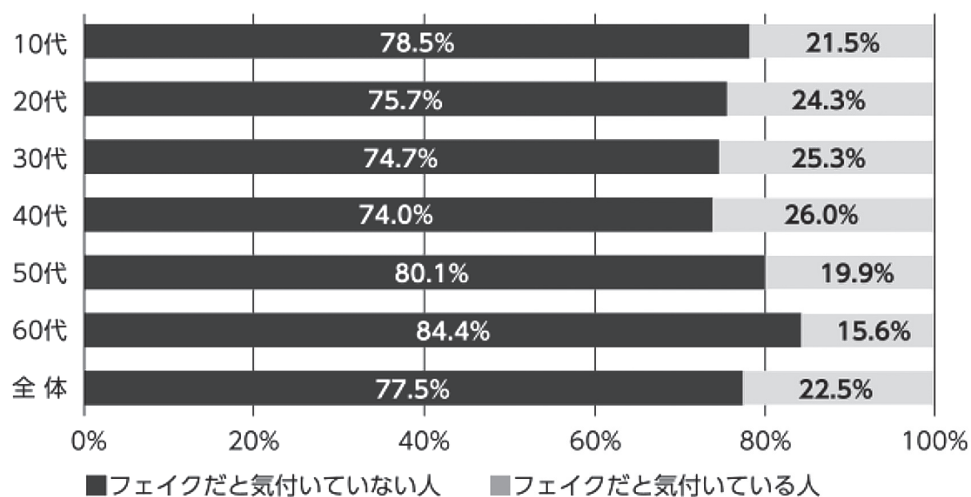
問5 — 線⑥「ネット情報」について、筆者は多くの情報が混在するインターネットとはどのような付き合い方が理想的であると考えていますか。それに対するあなたの意見を含め、以下の条件にしたがって書きなさい。

図2 インターネット利用率 (機器・学校種別) (3279人が調査対象)



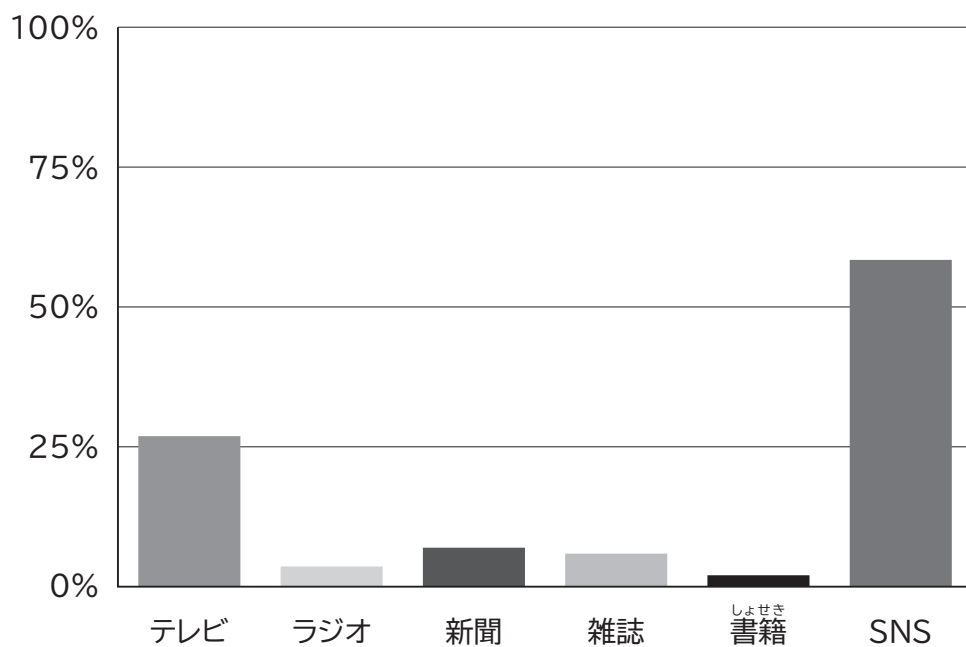
子ども家庭庁『令和5年度 青少年のインターネット利用環境実態調査』より

図3 フェイクニュースをうそだと見抜けていない人の割合



東京都消費者生活総合センター『東京くらしネット 令和4年1・2月号』より

図4 偽情報を見かけたメディア・サービス



総務省
『令和3年度 国内外における偽情報に関する意識調査』をもとに作成

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares created by dashed horizontal and vertical lines. The grid covers the entire area of the page, leaving no margins or additional markings.

20